

地球温暖化防止など、
環境への負荷が少ない
住まいづくり・住まい方が
求められています。
そこで、こうした住まいづくり・
住まい方を進めるため、
工夫やアイデアに富んだ
住宅・住まい方を募集しました。



主催:  埼玉県住まいづくり協議会

後援:  埼玉県

目次

目次	1p
概要	1p
最優秀賞	2p
優秀賞	3~5p
入選	6~10p
特別賞	11p
佳作	11~12p
応募作品	13~18p

第2回埼玉県環境住宅賞の流れ

審査委員会 平成26年5月27日(募集要項の決定)

募集 平成26年7月1日~9月30日

応募作品	103作品
・建築部門	39作品
・リフォーム部門	4作品
・住まい手部門	14作品
・アイデア部門	46作品

審査委員会 平成26年11月10日(作品審査)

表彰式 平成26年12月18日

第2回埼玉県環境住宅賞の概要

埼玉県環境住宅賞とは

地球温暖化防止など、環境への負荷が少ない住まいづくり・住まい方をすすめるため、工夫やアイデアに富んだ住宅・住まい手を募集し表彰するものです。

主催 埼玉県住まいづくり協議会

後援 埼玉県

対象

部門	建築部門	リフォーム部門	住まい手部門	アイデア部門
対象となる住宅・取り組み	県内に建築された環境にやさしく、居住性に優れた住宅のうち平成16年1月1日~平成26年6月30日までの間に確認済証を受けた住宅	県内に建築された環境にやさしく、居住性に優れた住宅のうち平成26年8月31日までにリフォームした住宅	環境に配慮した住まい方の工夫や住宅を長く使用するためにを行っている取り組み	環境に配慮した次世代の住宅や住まい方のアイデア

審査委員 (敬称略、五十音順)

委員長	三井所 清典	公益社団法人日本建築士会連合会	会長
委員	秋元 智子	認定NPO法人環境ネットワーク埼玉	理事・事務局長
委員	片淵 重幸	一般社団法人埼玉建築士会	常務理事
委員	佐藤 啓智	一般社団法人埼玉県建築士事務所協会	副会長
委員	外岡 豊	埼玉大学経済学部社会環境設計学科	教授

最優秀賞(建築部門)

森林公園の家



データ

所在地 ■ 滑川町
構造・階数 ■ 木造・2階
敷地面積 ■ 322.43㎡
延床面積 ■ 105.99㎡
建築面積 ■ 89.57㎡
工期 ■ 平成25年11月~平成26年3月
工事費 ■ 約2,800万円
居住者構成 ■ 15歳未満 2人
 15歳以上65歳未満 2人
応募者 ■ HAN環境・建築設計事務所
 松田 毅紀、南澤 圭祐、富田 享祐
設計者 ■ HAN環境・建築設計事務所
 松田 毅紀、南澤 圭祐、富田 享祐
施工者 ■ シグマ建設(株)

講評

周囲を森林公園の樹木に囲まれた南傾斜地。家はその存在だけではもちろんあり得ない。その環境の中でいかにとけ込み、またいかにその環境を生かすか、この結びつきが大切。この作品は、類のない自然環境に恵まれ、そのすばらしさすべてを十分に取り入れることができている。近隣で育った杉板が、外壁から内壁へとその形を変えてゆく。大きな開放的な木製サッシは、ゆったりと日射しを取り込みます。デッキテラス、土間空間、板の間へと小さな段差が連続してゆく。森林公園の緑豊かな景観が、その気配が、外から内へとその選び抜かれた意匠によって、奥へ奥へといざなわれてゆく。至るところに設計者のきめ細やかな気遣いが感じられ、そして、それを施工者の卓越した技量によって立派に実現された、最優秀賞にふさわしい作品である。(審査委員:片淵 重幸)



写真1 玄関からリビング・ダイニングの様子

優秀賞(建築部門)

KUMAGAYA SUMMER HOUSE

データ

- 所在地 ■ 熊谷市
- 構造・階数 ■ 木造・1階
- 敷地面積 ■ 499.10㎡
- 延床面積 ■ 105.58㎡
- 建築面積 ■ 132.65㎡
- 工期 ■ 平成24年11月～平成25年7月
- 工事費 ■ 約2,800万円
- 居住者構成 ■ 15歳未満 1人
15歳以上65歳未満 2人
- 応募者 ■ 伊藤裕子設計室 伊藤 裕子
- 設計者 ■ 伊藤裕子設計室 伊藤 裕子
- 施工者 ■ 田村建設(株)

講評

日本でも夏の気温が特に高い地域に建つ、シンプルな建物である。そのような地域に建てるにあたり、夏の日差しをカットするようになっている深い庇の形状、周りには木々を配置し、立地している風景とのバランスが良い。リビング部分には通風のための工夫もされており、大いに自然エネルギーを利用している。屋根部にはOMソーラーパネルの設置等、地球にやさしい環境型住宅である。南側に植樹している木が、お子さんの成長と共に大きくなり、日射や涼風に大いに期待できる。

パッシブ・省エネデータがあり、冬の全館暖房、給湯、などに十分効率よく作動しており、シンプルイズベストな建物である。(審査委員：佐藤 啓智)



優秀賞(リフォーム部門)

真冬に20度を下回らない家 ～光と風と断熱のデザイン～



真冬に20度を下回らない家 ～光と風と断熱のデザイン～



データ

- 所在地 ■ 吉川市
- 構造・階数 ■ 木造・2階
- 敷地面積 ■ 270㎡
- 延床面積 ■ 148㎡
- 建築面積 ■ 101㎡
- 工期 ■ 平成23年10月～12月
- 工事費 ■ 約3,400万円
- 居住者構成 ■ 15歳以上65歳未満 5人
- 応募者 ■ (株)OKUTA LOHAS Studio
坪野 藍
- 設計者 ■ 坪野 藍
- 施工者 ■ 田村 寿

講評

断熱性能Q値1.4、気密性能C値0.7を実現した改修例である。断熱材はセルローズファイバー、可変透湿機能付防湿気密シートを使用、夏場の日射遮蔽効果がある外付けブラインドシャッターを設置している。これをCADソフトによるシミュレーションで実現した効果予測図も示されている。(審査委員：外岡 豊)

優秀賞(アイデア部門)

長屋が魅せる次世代の暮らし

～ 長屋が魅せる次世代の暮らし ～

Concept
住まいづくりを考えるうえで、日本の暮らす環境は多岐にわたります。その中でも近年まで続けられてきた大規模の都市を受け、建物の更新には多くの課題が生まれています。本誌の創刊号(2019年)の建築基準法施行令改正を皮切りに大きく変化してまいりました。しかし、基準改正から30年を過ぎた現在でも多くの創設基準の建物が残されています。創設基準でこまかに設けられる基準がある為、今回は創設基準時に作られた建物をユニット住宅に建て替えを行い、現代日本の暮らす様々な社会事情を緩和することを考えます。ケースとして、現在人口減、高齢化の兆しを受けている北本市において、築40年を過ぎる北本団地の一部を建て直すことで、環境にやさしい住まいづくりを計画します。

Row House
今回団地の建て替え案として平屋の長屋を計画します。人口減少から北本市には高齢、高齢者の建物は必要なく、新たに若い世代の居住環境を整えるより、はるかに環境負荷も低減されます。

Plan
南側に開口を広く取り、南北方向に窓を設けることで採光を確保し通気効果を高めます。また、日射量の多い夏風方向に仕戸を設けていくことで、夏季における冷房負荷を軽減しました。北側の壁面にUVカットを設置することで、夏の紫外線放射に耐え易い空間の確保が図れます。

Solar System
環境にやさしい住まいの代表が太陽光発電です。近年、固定価格買取制度に伴い、20年間の全量買取制度を利用して10kW以上の太陽光を設置しようとする家庭が増えています。しかし一軒住宅で10kWの太陽光を設置しようとする建物の面積が必要で、建物の東西面やカーポートにまで設置しなければなりません。PVの設置面積が増えれば建物の電気効率が落ちてしまいます。夏風という多量の住宅向きであれば、一面の屋根に10kW以上の太陽光パネルを設置することができ、発電効率も上がります。さらに北本団地の敷地は高い樹木が揃い日当たりの高い太陽光発電には持って来いの土地になっています。建て替え計画を団地角部から進めていくことで、既存の建物の日当たりも確保した計画が可能です。

Insulation material
ユニット住宅が主流になってきた現在、断熱材の重要性が注目されてきました。当計画では今話題の発泡ウレタン断熱材を採用します。これは現在日本で主流の断熱材グラスウールと比べ、断熱性が非常に高く次世代の断熱材として注目されています。さらに自己修復性を持つという特徴も断熱面や面への劣化も可能です。平屋建ての建物は外部からの熱の影響を受けやすいため、断熱材は平屋建ての建物に最適と考えられます。また、断熱材の施工の行き届かない開口部にはUV断熱複合材「Low-Eペアガラス」を断熱材シートにはアルミを両面にシートの両面を合わせて断熱性も高めます。

Perspective

北本市人口(平成21年～平成22年)
35,129人(増) 208人 占1.228人(0.4-0.9)
北本市65歳以上の人口割合(平成17年～平成22年)
15.9%-21.1%

北本市65歳以上の人口割合(平成17年～平成22年)
15.9%-21.1%

北本市65歳以上の人口割合(平成17年～平成22年)
15.9%-21.1%

データ

構造・階数 ■ 木造・1階
 延床面積 ■ 175.55㎡
 建築面積 ■ 185.49㎡
 応募者 ■ ㈱ 桧家住宅
 伊澤 博希、島元 祐二

講評

この案はこれからの日本が直面する課題に正面から向き合った画期的な提案と言える。老朽化して耐震性が既存不適格な集合住宅の建替をどうするか、次の大地震にそなえて早く具現化が望まれる。人口減少の中で戸数を減らして環境にやさしい住まいとして平屋の長屋を提案している。日照、通風に配慮した設計、断熱手法とPVC設置について詳しく検討されている。CO₂排出削減量を示している点もよい。建て替え前後の戸数は記述がないが、かなりの縮減のようだ。それで十分ゆとりがある敷地の計画のようだが、解体費用を含めた建替費用負担はどうなるのか気になった。(審査委員：外岡 豊)

入選(建築部門)

BEAT HOUSE

えるいえ



データ

所在地 ■ 熊谷市
 構造・階数 ■ 木造・1階
 敷地面積 ■ 367.31㎡
 延床面積 ■ 102.68㎡
 建築面積 ■ 130.63㎡
 工期 ■ 平成24年6月～11月
 工事費 ■ 約2,350万円
 居住者構成 ■ 15歳以上65歳未満 2人
 設計者 ■ KAZ建築研究室 小磯 一雄
 施工者 ■ ㈱ 藤建設工房

応募者 ■ KAZ建築研究室 小磯 一雄

講評

多くの方々の力を借りて完成させた緑の屋根。この作品を見て、世界遺産である白川郷合掌造り家屋を思い出した。30～40年に一度の屋根を葺き替えるとき、地域の人々がお互いに労働力を貸し合う「結(ゆい)」の制度。村人たちの共同作業により、人と人との結びつきが強くなってゆく。人や地球環境に優しく、人と人との交流の機会をつくってゆく緑の草屋根、1階の風の通る開放感のあるオープンスペースの使い方もども、なるほどと納得する作品だ。(審査委員：片淵 重幸)



応募者 ■ ㈱ 本多健建築設計室 本多 健

データ

所在地 ■ さいたま市大宮区
 構造・階数 ■ 木造・2階
 敷地面積 ■ 94.69㎡
 延床面積 ■ 101.13㎡
 建築面積 ■ 56.78㎡
 工期 ■ 平成23年10月～平成24年4月
 工事費 ■ 約1,900万円
 居住者構成 ■ 15歳未満 2人
 15歳以上65歳未満 2人
 設計者 ■ ㈱ 本多健建築設計室
 施工者 ■ 杉本興業(株)

講評

居住者が不在の日中に潜熱蓄熱材PCMに太陽エネルギーを「える」家は、時間を「ずらして」夜は室内空気に放熱する仕組みが設置され、反射塗料で昼光利用し、ロスナイとCO₂吸収給湯機と全熱交換機で省エネ。PVCも設置し、夏は風を受け入れ、冬は風を受け流すL字型の間取りの家である。蓄熱、放熱の効果も実測記録があり、建て替え前との比較で38%の省エネを達成している。白い外観は周囲に明るい景観をもたらしている。様々な工夫をしているが建設費は抑えられておりパッシブソーラーハウスの好例である。(審査委員：外岡 豊)

入選(建築部門)

三層吹き抜けの家



応募者 ■(株)高砂建設 佐藤 太昭

データ

所在地 ■ふじみ野市
 構造・階数 ■木造・3階
 敷地面積 ■126.33㎡
 延床面積 ■125.86㎡
 建築面積 ■58.37㎡
 工期 ■平成23年9月～平成24年3月
 工事費 ■約3,000万円
 居住者構成 ■15歳以上65歳未満 3人
 設計者 ■(株)高砂建設 藤岡
 施工者 ■(株)高砂建設

講評

陽が燦々と降り注ぐ家。設計者がこの施主の希望に対して出した答えが、三層の吹き抜けだった。各階に大きな南窓をもつ縦空間の連続と、各階の東西に設置された大きな窓により、南北に細長い建物の各階随所に、光と風がゆきわたる。
 三層の吹き抜けには、管理のためかねて、気持ちのよい回廊がまわり、1階居間ではペレットストーブが焚かれ、暖かさが家中にまわる。各階が隔離しやすい3階建てだが、この三層の吹き抜けにより、家族のみなが家の中どこにいても、いつもお互いの気配を感じることができる。(審査委員：片渊 重幸)

緑が心地よい心安らぐ家



応募者 ■(株)高砂建設 豊岡 里奈

データ

所在地 ■さいたま市見沼区
 構造・階数 ■木造・1階
 敷地面積 ■317.65㎡
 延床面積 ■101.85㎡
 建築面積 ■115.93㎡
 工期 ■平成23年9月～平成24年2月
 工事費 ■約2,650万円
 居住者構成 ■15歳以上65歳未満 1人
 65歳以上 1人
 設計者 ■(株)高砂建設 小川 尚信
 施工者 ■(株)高砂建設

講評

県産材の導入は地産地消の観点から環境に配慮した家だと思った。輸入材は海外から化石燃料を使って輸送して来るため、CO₂が排出され地球温暖化の原因になる。さらに自然の光を上手に取り入れたり、空気の流れを活用したり、自然素材の漆喰や無垢材などを導入したりと自然にも健康にも優しい家作りだと思った。省エネ効率の高い最新技術も取り入れ、自然とハイテク技術が合わさったエコな家作りだと感心した。
 (審査委員：秋元 智子)

入選(リフォーム部門)

次世代に受け継ぐQ値1.9の家
 ～『進化』するところ、『残す』ところ～



応募者 ■(株)OKUTA LOHAS Studio 坪野 藍

データ

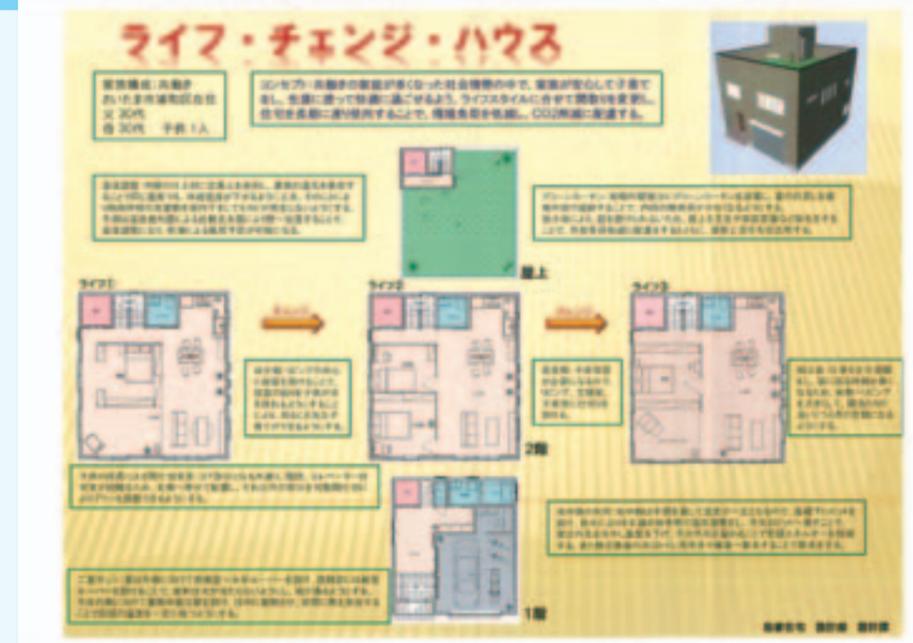
所在地 ■さいたま市
 構造・階数 ■木造・2階
 敷地面積 ■135㎡
 延床面積 ■101㎡
 建築面積 ■66㎡
 工期 ■平成23年11月～平成24年1月
 工事費 ■約2,270万円
 居住者構成 ■15歳以上65歳未満 1人
 65歳以上 2人
 設計者 ■坪野 藍
 施工者 ■飛田 恭介

講評

リフォームする前は光が入らず、暗い室内の家であり、夏暑く、冬はとても寒い家であったと、施主のコメントがあったが、リフォーム後は断熱性が向上し、暑さ寒さが改善されたとのこと。床、壁、天井にはセルロースとファイバー断熱材、サッシは断熱型に交換、太陽光発電機を設置し、エネルギー消費を極力少くした住宅である。
 建物を解体して新築しなくても耐震を高め、現代の基準に合わせた値が得られた住宅で、次世代にも受け継がれるであろう。
 (審査委員：佐藤 啓智)

入選(住まい手部門)

ライフ・チェンジ・ハウス



応募者 ■(株)松家住宅

データ

所在地 ■さいたま市浦和区
 構造・階数 ■木造・2階
 敷地面積 ■97.41㎡
 延床面積 ■155.68㎡
 建築面積 ■74.52㎡
 居住者構成 ■15歳未満 1人
 15歳以上65歳未満 2人

講評

家族構成の変化や家族の成長に応じて寝室の数や位置を変えるという提案である。外枠が間口4.5間、奥行5間程の方形の中に水廻りと階段・エレベーターを固定し、個室と収納等がある時期の家族生活に合わせるというもので生活主体の住まいづくりである。取り壊して新築するという考えに対し、建物を大事に使いこなすという思想の中に省資源・省エネルギーの基本があり、日射は制御や地中熱利用等の省エネルギー技術も考慮されている。
 (審査委員：三井所 清典)

進化版「掘りごたつ」でエコ生活 ～古き良きをあえてコタツで家族団欒を～



応募者 ■(株)アキュラホーム 齋藤 直樹、花田 理紗

データ

構造・階数 ■ 木造・2階
敷地面積 ■ 130㎡
延床面積 ■ 100㎡
建築面積 ■ 50㎡

講評

進化版「掘りごたつ」～蓄熱式床暖房である。家族間の会話が減りつつある現代で、掘りコタツで家族団欒・楽しい企画である。床暖房にすることで部屋全体があたためられ、室内の空気もきれいである。オール電化によりCO₂の削減もでき地球環境にやさしいエコな住宅。古き良き日本の風景を思い起こすような、家族の憩いの場ができる。
(審査委員：佐藤 啓智)

できる!自給自足ECO



応募者 ■長江 秀樹

データ

構造・階数 ■ 木造・2階
敷地面積 ■ 100㎡
延床面積 ■ 100㎡
建築面積 ■ 50㎡

講評

身近に取り入れられるエコを満載したアイデアで、ちょっと頑張ればどこの家庭でも楽しくエコライフが実践できそうである。太陽の光や熱の利用、年間の温度変化が少ない地下水や雨水の利用など、自然の力の利用がこれからのエコなのだと思う。生ごみ活用はディスプレイも便利だが、電気を使わないコンポスト等の方法もある。是非、生ごみ堆肥も取り入れて欲しい。
(審査委員：秋元 智子)

サンルームを活用した住まい方提案

みどりといっしょ ～みんなで一緒に暮らすこと～



応募者 ■吉永 るい

講評

住居、商業混在地区での商業・住居提案。地域全体の居住環境を「みんなでみどりといっしょに暮らす」という明快な構想のもと、南向きに統一した間取りと緑があるバルコニーを規則化して「緑溢れる明るい地域」景観が期待されている。この統一されたみどりが住民、通行人の環境意識の変化を促すことも期待されている。コミュニティとして街区全体をよくしたいという強い意欲から、それには人間の内面へ訴えかけようという考えが結晶した意欲的提案である。(審査委員：外岡 豊)

データ

構造・階数 ■ RC造・4階
敷地面積 ■ 204.72㎡
延床面積 ■ 433.35㎡
建築面積 ■ 122.83㎡

サンルームを活用した住まい方提案



応募者 ■亀澤 広介

データ

所在地 ■ ふじみ野市
構造・階数 ■ 木造・2階
敷地面積 ■ 146㎡
延床面積 ■ 98㎡
建築面積 ■ 55㎡
居住者構成 ■ 15歳未満 2人
15歳以上65歳未満 2人

講評

住宅の南面に奥行1間、間口2～3間程の大きなサンルームを設け、四季折々の外部条件に応じて使い方を提案は、生活に幅が生まれ、住宅の居住性の向上と省エネルギーに寄与する新しいアイデアである。表現されている写真は夏のプール遊び。秋の庭と一体となった心地良さそうなくつろぎ空間。冬の屋間の暖かい日差しの中での遊び場。春は花粉除けの洗濯物干し場。と具体的な生活提案も楽しそうである。(審査委員：三井所 清典)

応募作品(建築部門)

■解体撤去物・伐採予定を利用し施工建物もエコを取り入れた家



応募者 ■(株)アキュラホーム 安倍 菜

■高齢の母親と仕事をしながら介護するのに最適なエコ住宅



応募者 ■(株)アキュラホーム 星野 光広

■～遊び心の詰まった～エコな家



応募者 ■鈴木 広大

■太陽をエコに活用する住まい



応募者 ■(株)アキュラホーム 佐藤 広規

■光と風が心地よい2階リビングの家



応募者 ■(株)高砂建設 永島 宏晃

■住むだけでエネルギーを生む家



応募者 ■パナホーム(株) 埼玉支社 染谷 和寿

■エネルギーを創る・抑える・活用する・見える化した未来基準住宅



応募者 ■パナホーム(株) 埼玉支社 渡辺 一生

■あたたかい家『真の家』



応募者 ■安心ホーム計画(株) 阿部 誠

■太陽と緑が生きる家



応募者 ■(株)アキュラホーム 横尾 美祐

■太陽光発電を活かしたエコ住宅!



応募者 ■(株)アキュラホーム 白川 有美

■風の通り道を重視した家



応募者 ■(株)アキュラホーム 白川 有美

■A House



応募者 ■石井設計事務所 石井 保

■きずなたん 熊谷市拾六間5期(24棟)



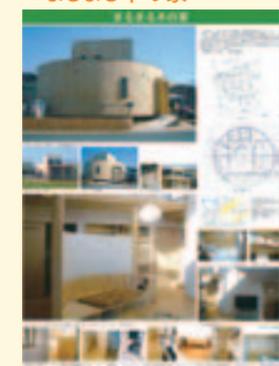
応募者 ■ケイアイスター不動産(株)

■コトマチ熊谷市新堀新田3期(10棟)



応募者 ■ケイアイスター不動産(株)

■まるまる木の家



応募者 ■ひでりこ植木設計事務所 植木 秀規

■南欧風ガレージハウス



応募者 ■(株)高砂建設 佐藤 太昭

■ゼロエネハウス



応募者 ■吉田 知也

■お父様が建てた家の思い出を継ぐ家



応募者 ■信藤 聡美

■ハナミズキ通りの家



応募者 ■岩瀬アトリエ建築設計事務所(有) 岩瀬 行泰

■狭山RE+HOUSE



応募者 ■アトリエ元 本橋 カズハル
栄光建設 若林 邦雄
m・j・m 宮野 義保

■北欧ハウス川越市新宿町1期(12棟)



応募者 ■ケイアイスター不動産(株)

■杉階段の家



応募者 ■大石かおり一級建築士事務所

■自然の光を活かす家



応募者 ■川上 明日香、内田 貴光

■ココロハウス



応募者 ■(株)sside 糸井 裕構

■「木の香る住まい」 我が家で森林浴ができる暮らし



応募者 ■(株)高砂建設 友常 芳隆

■市街地で太陽と風を 収穫する家



応募者 ■近藤建設一級建築士事務所 發智 良幸

応募者 ■高田 英志

応募者 ■(株)アキュラホーム 川島 章、阿部 祐輔

応募作品 (リフォーム部門)

■ つむぐ〜次世代基準継承できる passiv design reform〜



応募者 ■ (株) OKUTA LOHAS Studio 滝澤 美穂

■ 父の仕事場をリビングへ 思い出を残した耐震リフォーム



応募者 ■ (株) OKUTA LOHAS Studio 澤村 夏子

■ 普通に暮らして毎日快適な エコな生活



応募者 ■ 田岡 飛鳥

■ 我が家のECO



応募者 ■ 熊沢 ももこ

■ 「朝顔とすだれ」カーテンで 日射・通風に配慮



応募者 ■ 粕谷 明男

■ 住まいを長持ちさせて、 環境に配慮



応募者 ■ 猪俣 和貴子

■ グリーンカーテンで 日射・通風に配慮



応募者 ■ 粕谷 明男

■ お家でできる夏・冬の簡単 ECOプラン



応募者 ■ 速水 謙太郎

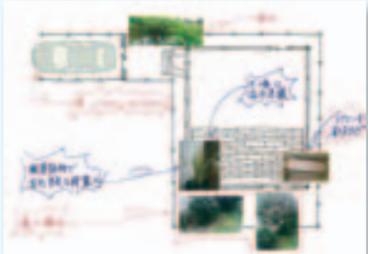
応募作品 (住まい手部門)

■ 必要最低限の機器利用によるエコ生活



応募者 ■ 知久 要介

■ 省エネ推進と緑化による環境への取組み



応募者 ■ 阿久根 幸晴

■ 光・風・緑・そして人のエコ住宅



応募者 ■ 遠藤 雅人

■ 自然の力を上手に使ったECO生活



応募者 ■ 土屋 ウタ子

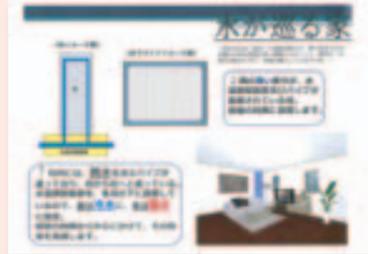
■ 夏をズシクスゴス為の風の通り道を生かした住まい



応募者 ■ 中田 智

応募作品 (アイデア部門)

■ 水が巡る家



応募者 ■ (株)アキュラホーム 鈴木 広大

■ 水の節約術



応募者 ■ (株)アキュラホーム 横尾 美祐

■ LOHAS@USE -環境と住宅の共存-



応募者 ■ (株)アキュラホーム 小笠原 駿

■ 記念樹の共有による屋敷林の復興



応募者 ■ 星野 翔大

■ 雨と暮らす家



応募者 ■ (株)アキュラホーム 岩崎 弘明

■ 草木に囲まれたエコ生活



応募者 ■ (株)アキュラホーム 横尾 美祐

■ 井戸のある家



応募者 ■ 田中 文章

■ 屋根散水によるエアコン代削減アイデア



応募者 ■ 解良 聡子

■ Enjoy with LOHAS



応募者 ■ (株)アキュラホーム 佐藤 広規

■ エアコンから出る水を再利用



応募者 ■ 信藤 聡美

■ LOHAS GREEN



応募者 ■ (株)アキュラホーム 佐藤 広規

■ 色を使ったエコ生活



応募者 ■ 松尾 舞



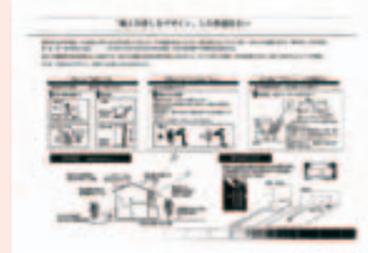
応募作品 (アイデア部門)

■ 自然と共に暮らす家



応募者 ■ 鈴木 輝

■ 風と日差しをデザインした快適住まい



応募者 ■ 押野 裕三

■ 毛細管現象を利用し、屋根に水を吸い上げるエコ住宅



応募者 ■ 伊藤 健次

■ 太陽をフルに活かす家



応募者 ■ 吉澤 遼

■ 夏を快適に過ごす家



応募者 ■ 田中 宏和

■ 日だまりの家



応募者 ■ 酒井 匡史

■ バルコニーの緑化のエコ提案



応募者 ■ 富樫 宏行

■ グリーンカーテンで涼しい快適な夏を!!



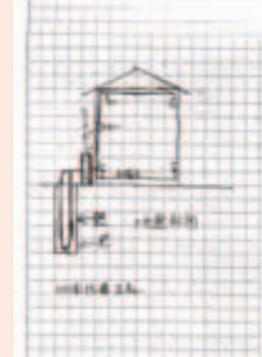
応募者 ■ (株)アキュラホーム 阿部 祐輔

■ 無駄を活かす・使う!!



応募者 ■ 梅原 拓郎

■ 地熱利用のエコな家



応募者 ■ 佐藤 正和

■ 雨水ためて打ち水利用



応募者 ■ 廣瀬 敬

■ 暖房のいらぬ家



応募者 ■ 小島 草太

■ 雨水の有効活用 (屋上設置)



応募者 ■ 阿久根 幸晴

■ ドライミストのある家



応募者 ■ 細淵 直樹

■ エコバイクのある家



応募者 ■ 天賀谷 清子

応募作品 (アイデア部門)

■ 人と風がめぐる心地良い住まい



応募者 ■ 吉岡 正明

■ もっと太陽を活かす家



応募者 ■ 南 志津弥

■ “涼”が取れるLiving



応募者 ■ 野澤 大輔

■ 自然を活かす節電eco住宅



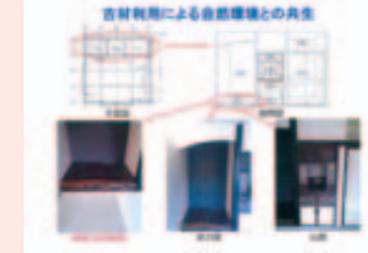
応募者 ■ 石井 克典

■ ヘルシーキッチン



応募者 ■ 小倉 悟

■ 古材利用による自然環境との共生



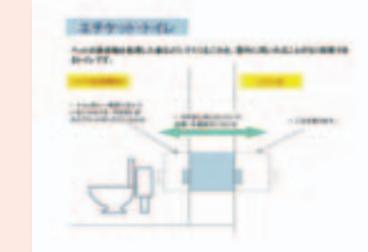
応募者 ■ 柿崎 覚

■ 地中家



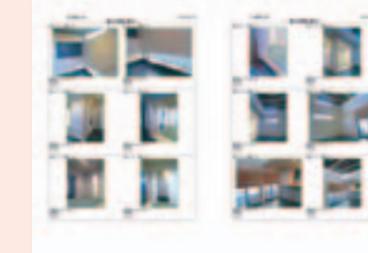
応募者 ■ 熊沢 哲也

■ エチケット・トイレ

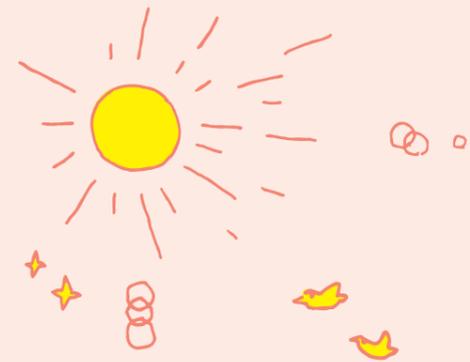


応募者 ■ 小倉 典子

■ 無題



応募者 ■ 松山 貢治



総評

第2回埼玉県環境住宅賞の応募作品は、全体として埼玉らしい内容のものが多く、その意味で、環境意識のレベルが高まっていると感じた。埼玉県は緯度の上からは典型的な温暖地である。しかし、その中でも内陸型の気候で、夏は蒸暑地域よりも暑く、冬の寒さはもう少し緯度の高い沿岸部の地域より厳しく、空気は乾燥している。夏を配慮すれば高気密・高断熱の北方型エコハウスにはならない。やはり、夏をどう凌ぐかが重要となる地域である。たぶん昔からそのような気候に対処する住まいづくりが行われていただろう。最近には南にある東京における超高層建築の高密化の進行で、雨の降り方が変わってきているとの報道もあり、微妙な気候の変化にも注意しながら、住まいづくりや街づくりを進める必要がある。現時点で埼玉らしい住まいづくりは、南側の庇を深くし、夏の直射日光の室内への差し込みを防ぎ、床面を吹く風の通りをよくすることが基本である。次に冬の寒い風の吹き込み、あるいは吹付に対して備えることである。立地によって異なる風の向きを十分に調査して住宅の設計をすることになる。

建築部門で評価された住宅は殆ど、埼玉地域の基本条件を配慮して対策が講じられているもので、いわゆるパッシブ型になっている。

特別賞の2作品はともに戸建住宅団地で、団地のつくり方を工夫して大宮と熊谷の暑い夏になんとか外気温の低下に努めようとしている。何れも、この団地内部での工夫で周囲から吹き込まれてくる暑い外気温をどこまで下げられるかその効果は定かでないが、このような努力が地域に広がることで効果が生じてくることは予想できる。そのための先行事例として評価した。この団地ではそれぞれ検証作業を期待したい。

リフォーム部門は夏は暑く、冬は寒かった従来の住宅を、夏は涼しく、冬は暖かい住まいに改修した事例が優秀賞と入選となった。入賞した2例からリフォームが今後の大きな市場となることが容易に予想されるので、リフォーム技術の向上に励むことが期待される。

住まい手部門は省エネルギー手法の要素が提案になっている。簾、緑のスクリーン、庭の緑化、庇、袖壁による日射遮蔽、通風の工夫、ドア上の欄間の開閉、節水シャワーヘッド、消し忘れ対策としてのタイマーセット、お風呂の残り水の活用、雨水の活用、掃除による省エネ効果の提案等様々であったが、なかなか優劣つけがたかった。

アイデア部門は最も多くの応募があった部門で、環境への意識の高さがうかがえる。省エネルギーの要素及び街をもとにそれに工夫を重ねて意識的に個性化した提案が多く、提案者が楽しんでいるところは審査委員も楽しませてもらった。

第2回埼玉県環境住宅賞審査委員会
委員長 三井所 清典



第2回 埼玉県環境住宅賞作品集

発行：埼玉県住まいづくり協議会
☎048-830-0033